

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【公表番号】特表2004-510794(P2004-510794A)

【公表日】平成16年4月8日(2004.4.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-014

【出願番号】特願2002-533657(P2002-533657)

【国際特許分類第7版】

A 0 1 N 59/16

A 0 1 N 25/02

A 0 1 N 33/06

A 6 1 K 33/38

A 6 1 L 2/18

A 6 1 P 17/00

【F I】

A 0 1 N 59/16 A

A 0 1 N 25/02

A 0 1 N 33/06

A 6 1 K 33/38

A 6 1 L 2/18

A 6 1 P 17/00 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成15年4月11日(2003.4.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

高沸点のアミン系化合物、または骨格(backbone)または側鎖に塩基性窒素原子が結合している水溶性高分子に存在する窒素原子の孤立電子対と銀イオンが配位結合をなしている銀系錯体を有効成分として含有することを特徴とする抗菌脱臭性溶液。

【請求項2】

前記銀系錯体が水溶剤または水とアルコールの混合溶剤に溶けていることを特徴とする請求項1記載の抗菌脱臭性溶液。

【請求項3】

前記骨格(backbone)または側鎖に塩基性窒素原子が結合している水溶性高分子が、ポリビニルアミン、ポリアリールアミン、ポリエチレンイミン、ポリヘキサメチレンビグアニジンおよびポリビニルピリジンからなる群から選ばれるものであることを特徴とする請求項1記載の抗菌脱臭性溶液。

【請求項4】

前記高沸点のアミン系化合物が、モノエタノールアミン、ジエタノールアミンおよびトリエタノールアミンからなる群から選ばれるものであることを特徴とする請求項1記載の抗菌脱臭性溶液。

【請求項5】

前記銀イオンが、硝酸銀、酢酸銀、硫酸銀、安息香酸銀、サリチル酸、チオサリチル酸銀塩またはスルファジアジン銀に由来するものであることを特徴とする請求項1記載の抗菌

脱臭性溶液。